



## NK/NAPAの最適運航支援、川崎汽船が燃費改善効果を確認

川崎汽船が燃費改善効果を確認

NK/NAPAの最適運航支援、3隻追加

日本海事協会(NK)は18日、船舶の設計・運航支援ソフトを手掛けるNAPAが提供している最適運航支援システム『ClassNK-NAPA GREEN』が、川崎汽船が現在実施中の実船検証を通じ、さらに8600TEU型コンテナ船3隻に導入されると発表した。

今年はじめからの実船検証で『ClassNK-NAPA GREEN』の自己学習機能(Dynamic Performance Model)が効果的に機能しているため、3隻への追加導入が決まった。導入は来年6月に実施される予定。

NKの中村靖副会長は「『ClassNK-NAPA GREEN』により、船主、用船社は船舶の運航を最適化できることに加え、運航パフォーマンスと燃料消費量を正確に把握し、理解することが可能になる」とコメント。「システムを初期段階から使用していた川崎汽船が導入拡大を決定したことで、製品の有用性が証明された。川崎汽船に感謝したい」としている。

また、NAPAジャパンの水谷直樹社長は「NAPA社が目指しているのはより安全で環境効率に優れた船舶の設計・運航ソリューションの提供。『ClassNK-NAPA GREEN』により得られた運航燃費改善や、今後の船舶設計の最適化につながるフィードバックが一例。川崎汽船のコンテナ船をはじめ、導入実績は多様な船型・運航形態に広がりを見せている」とコメント。「規制対応や経済性向上、社会的責任の観点からも、船舶は燃費管理や環境対策に一層のコミットメントが求められている。NAPAとNKの協力を通じ、顧客の問題解決を支援する」としている。

[記事一覧に戻る](#)

[この記事印刷する](#)